『兎さんの本屋とリスの先生』

村山籌子

あるところに、大変そそっかしい兎さんの本屋がありました。

お店に新しい本が届いたある日。兎さんはフロックコートを着て、鼻眼鏡をかけ、ステッキを持って、本は小脇に抱えて売りに出掛けました。

森の入口に来ると、リスさんに会いました。ひげを生やし、とても賢そうに見えるリスさんだったので、きっと本を買ってくれるだろうと思った兎は「リスさん、本を買って下さい。私は立派な本屋さんです。」と言いました。フロックコートを着て、鼻眼鏡をかけて、ステッキをついている兎を見て、リスさんはなるほど立派な本屋さんだと思いました。リスさんが「僕は医科大学の先生をしています。ぜひ本を買いたいのですが、あいにく今はお金を持っていません。家までついて来て下さい。」と言うと、兎は大喜びでリスさんの家へついて行きました。

リスさんの家は遠く、到着した頃にはもうすっかり暗くなっていました。

門口まで来ると、リスさんは家へ入って行き、お金を持って来ると兎に本の代金を払いました。その時ちょうど、6時を知らせる鐘が鳴り、あたりがパッと明るくなりました。

リスさんの村では、夕方の6時になると電気が点くのです。

1回目 分 秒

2回目 分 秒

3回目 分 秒

@おはなしコレクション（https://ohacolle.com）